



第Ⅲ章 都市の目標



1. 都市の将来像

上位計画である沖縄市総合計画における将来像は、第1次から第4次にわたって継承されており、沖縄市の限りない発展へと向かう市民の希望を表すものである。

市の都市計画の基本的な方針である本マスタープランにおいても、都市の将来像を「国際文化観光都市」と設定する。

将来像

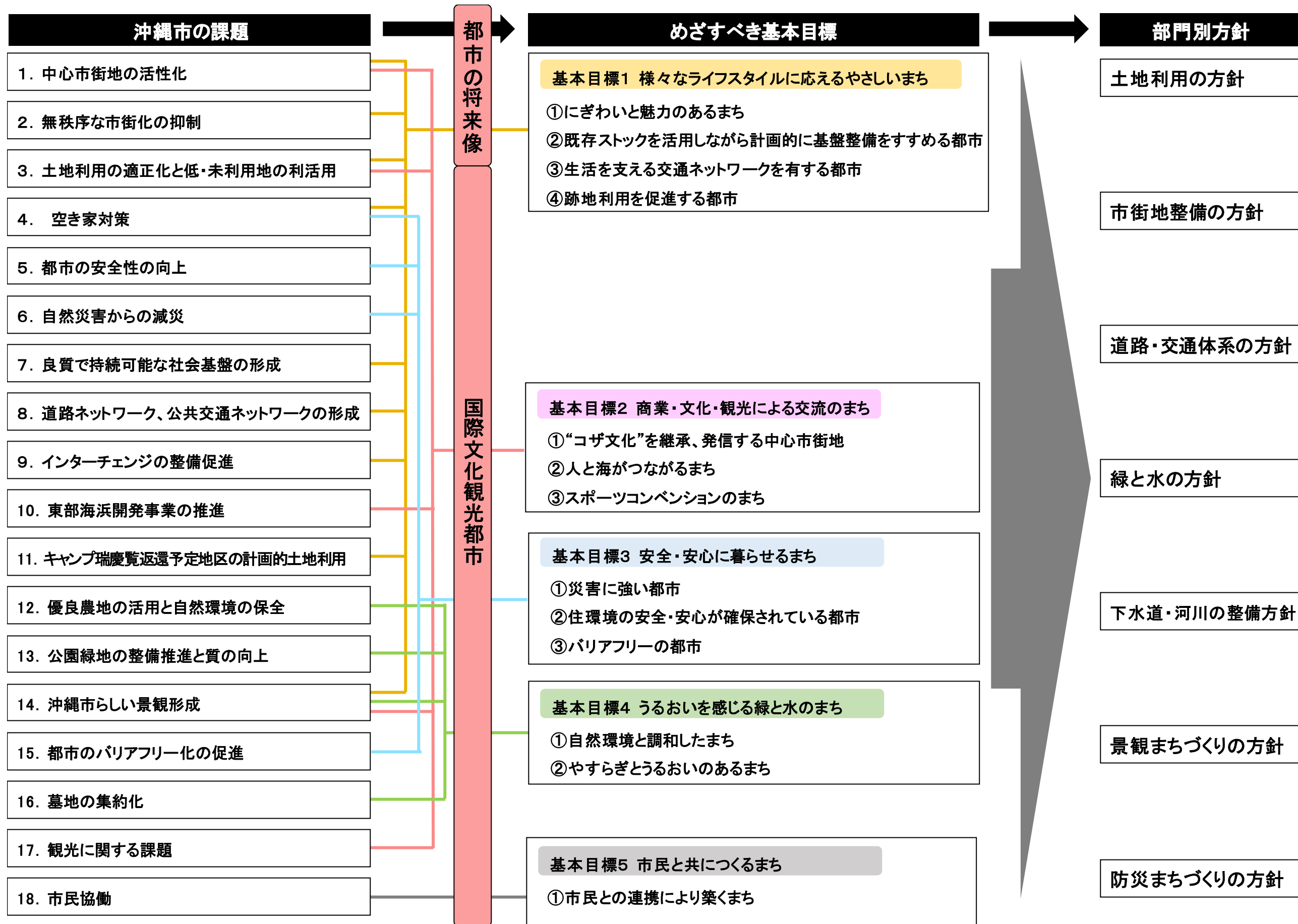
国際文化観光都市

2. めざすべき基本目標

都市の将来像を受けて、本マスタープランでは、将来の都市がイメージできるよう以下の5つの基本目標を設定した。

- ① 様々なライフスタイルに応えるやさしいまち
- ② 商業・文化・観光による交流のまち
- ③ 安全・安心に暮らせるまち
- ④ うるおいを感じる緑と水のまち
- ⑤ 市民と共につくるまち

前章において整理した沖縄市の課題とめざすべき基本目標との対応は次のとおりとなる。



基本目標 1：様々なライフスタイルに応えるやさしいまち

①にぎわいと魅力のあるまち

商業業務機能、医療福祉機能、居住機能、公共交通等の多様な都市機能が集積した、利便性が高く快適な環境を形成し、まちなかの活性化を図る。

②既存ストックを活用しながら計画的に基盤整備をすすめる都市

今後も増加する人口や多様化するニーズに対して、引き続き施設の長寿命化を図るとともに民間活力導入に向けて取り組むなど、計画的で適正な基盤整備をすすめる。

③生活を支える交通ネットワークを有する都市

市内外を結びヒトやモノの円滑な移動を支援する交通ネットワークが整備された都市をめざす。

また、来たるべき少子・超高齢社会に備え、高齢者やこども、障がい者などの交通弱者の生活を支える公共交通機関が機能し、多様な人を受け入れられる都市をめざす。

④跡地利用を促進する都市

今後の本市の大きな発展の潜在力になる基地跡地利用について検討し、跡地利用を促進する活気とうるおいのある都市をめざす。

基本目標 2：商業・文化・観光による交流のまち

①“コザ文化”を継承、発信する中心市街地

中心市街地において醸成されてきた国際性や音楽、芸能、“コザ”という名称を含めた“コザ文化”を継承する中心市街地をめざす。

また、“コザ文化”を観光客など来街者に対して発信することにより、にぎわいと交流を生み出す中心市街地をめざす。

②人と海がつながるまち

東部海浜開発地区等の海浜部の地域特性を活かしたレクリエーション機能・リゾート機能を有するにぎわいの場や海に囲まれた豊かな自然とふれあいを形成する。

③スポーツコンベンションのまち

東部海浜開発地区や沖縄アリーナ等の整備により、様々なスポーツの観戦やイベント開催による集客を活かし、周辺のみならず中心市街地を含めた市域の活性化を図る。

基本目標 3：安全・安心に暮らせるまち

①災害に強い都市

地震・津波や浸水、土砂災害等の自然災害から市民の命と財産を守るために、災害に強い都市づくりをすすめるとともに、市民に対する啓発や情報提供により生命を最優先に守るための減災まちづくりを推進する。

②住環境の安全・安心が確保されている都市

密集した既成市街地における木造建築物の適切な更新等により防火性の向上を図るとともに、既存住宅ストックの有効活用や犯罪防止の観点より空き家対策を推進し、安全・安心な都市をめざす。

③バリアフリーの都市

まちなかの公共施設や交通結節点は、高齢者やこども、障がいのある方が容易に移動できるようにするとともに、物理的なバリアだけでなく心のバリアのない都市をめざす。

基本目標 4：うるおいを感じる緑と水のまち

①自然環境と調和したまち

嶽山原、斜面緑地、河川や海岸部の水辺、また、優良農地など、豊かな自然環境の保全や景観の保全により、自然と調和したうるおいのある緑と水のまちをめざす。

②やすらぎとうるおいのあるまち

市街地の未整備公園緑地の整備を推進し、やすらぎとうるおいのあるまちなかの形成をめざし、散在する墓地や新たな墓地の開発については、適切な土地利用や良好な景観形成を図るため、適切な場所への集約化を検討する。

基本目標 5：市民と共につくるまち

①市民との連携により築くまち

市民参加やわかりやすい情報発信により、市民が主体的に本市のまちづくりについて取り組み、行動する都市をめざす。

3. 将来都市構造

3-1. 都市構造を構成する要素

ゾーン（面）：概ねの土地利用ごとに区分にした土地のまとまり

都市軸（線）：都市を形成する骨格であり、各拠点の連携を図る動線

都市拠点（点）：都市活動の中心的な場として各種機能の集約を図る地区

3-2. 将来の都市構造図

（1）ゾーン

①交流ゾーン

国道 330 号沿線に形成されるコザ十字路からライカム交差点に至る商業地は、国際色豊かで個性的な雰囲気を持ち、新たな公共交通の導入や市街地開発事業等により魅力的でにぎわいのある交流空間を創出する。

東部海浜開発地区においては海浜部の地域特性を生かしたスポーツコンベンション及びビーチフロント観光の拠点を創出し、商業機能を有するにぎわいの場を形成する。

②緑地ゾーン

市北部の嶽山原及び倉敷ダム周辺の貴重な緑地や市東部に広がる斜面緑地を保全し、緑豊かな都市環境を確保する。

③農地ゾーン

市北部や東部に広がる農地においては、優良農地の保全・活用を図り、自然・農地・市街地が共存した営農空間の形成を促進する。

④産業誘致ゾーン

内陸部の池武当においては、産業集積を図るとともに、市東部の中城湾港新港地区においては物流産業の集積やクルーズ船就航を促進する。

⑤市街地ゾーン

中西部や東部に広がる市街地においては、まちなみ景観の形成や密集した既成市街地の改善などにより良好な住環境の創出を図る。

（２）都市軸

本市は、南北軸である沖縄自動車道、国道 329 号、国道 330 号、東西軸である沖縄嘉手納線、沖縄北谷線、県道 20 号線等の広域幹線道路を中心に構成されている。

新たな都市軸の形成としては、広域幹線道路である国道 329 号沖縄バイパスの事業化促進や、県道 24 号線バイパス、更に基幹バスシステムの導入、新たな公共交通などの整備促進により、南北軸や東西軸の強化を図る。

（３）都市拠点

①中心拠点

商業・業務・行政・医療福祉・教育など多様な機能が集積された本市の中心地としての役割を担う。

②地域拠点

周辺部の中心として商業サービス機能を提供する拠点としての役割を担う。

③緑の拠点

緑とオープンスペースを生かした市民の活動や憩いの場の拠点としての役割を担う。

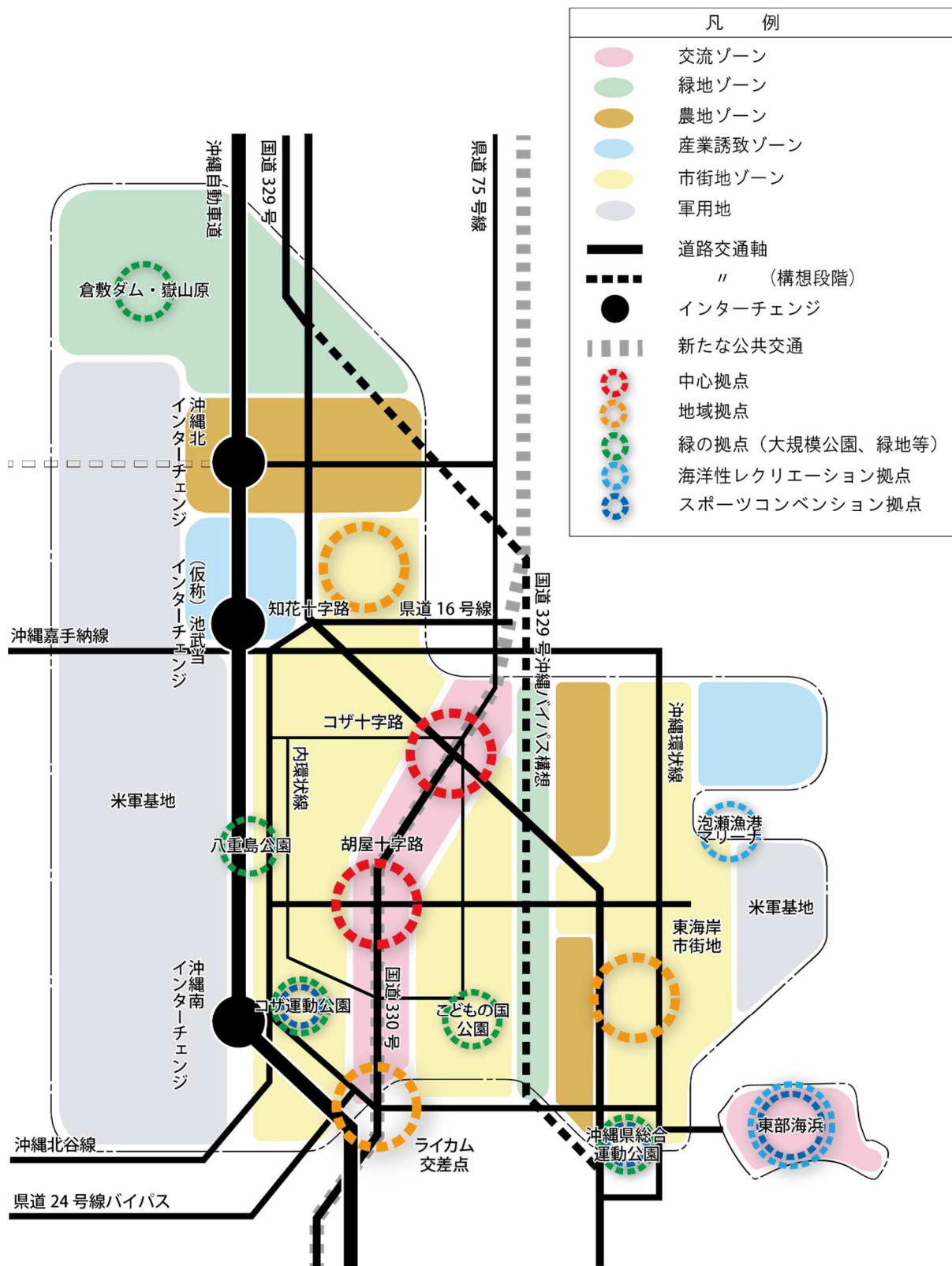
④海洋性レクリエーション拠点

海を生かしたレクリエーション機能やリゾート機能、商業機能を有するにぎわい拠点としての役割を担う。

⑤スポーツコンベンション拠点

スポーツやイベントによる集客を生かしたにぎわい拠点としての役割を担う。

■ 将来都市構造図



4. 将来人口フレーム

将来人口フレームとは、計画的なまちづくりをすすめるために、将来の都市の規模を想定した人口推計である。

沖縄市都市計画マスタープランにおける将来人口フレームを以下のとおり設定する。

<目標年次>

本マスタープランがめざす目標年次は、基準年より概ね 20 年後としていることから令和 17 年とする。

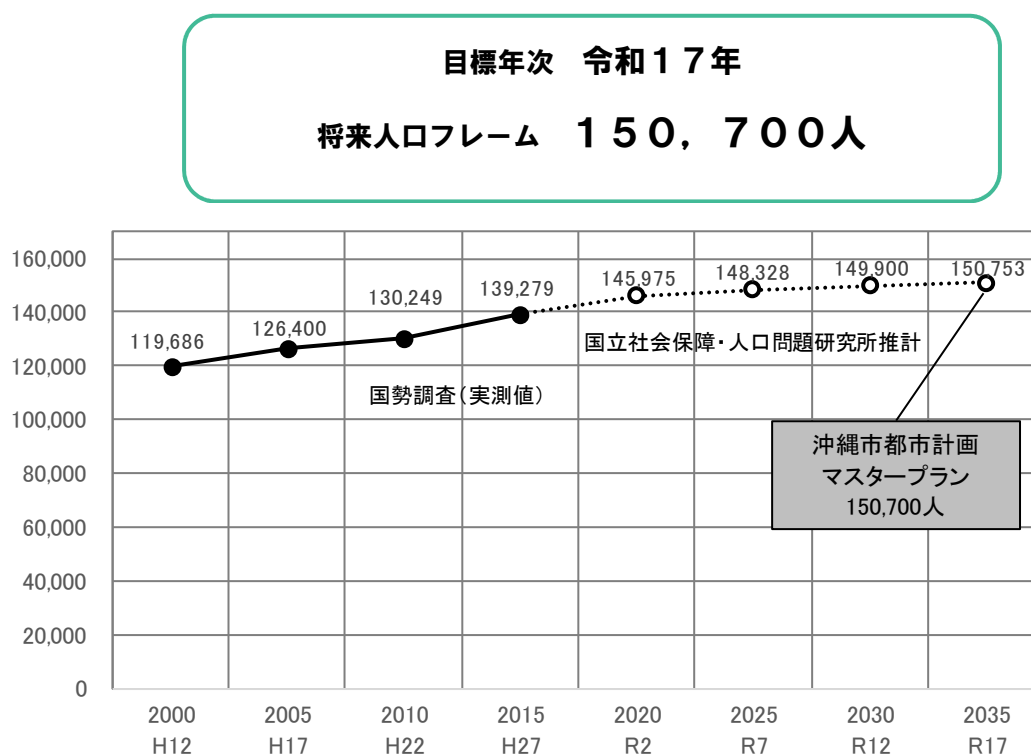
<基準年次>

目標年次（令和 17 年）の将来人口は、平成 27 年の国勢調査の人口を基に推計する。

<設定方法>

本市の人口は、これまで増加傾向にあり、平成 27 年時点では、139,279 人となっている。国立社会保障・人口問題研究所推計によると、目標年次である令和 17 年には、150,753 人まで増加する見込みとなっている。

本計画では、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づき、将来人口フレームを以下の通り設定する。



【国立社会保障・人口問題研究所の推計方法】

平成 27 年の国勢調査結果における男女・年齢別人口を基準に、将来の生存率・純移動率・子ども女性比・0-4 歳性比の仮定値を当てはめて算出している。